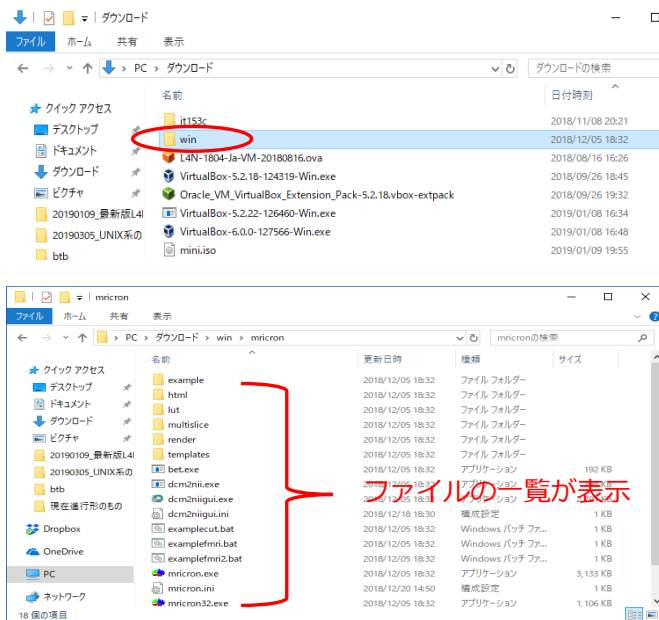


## 【Windows】 ファイル一覧の表示



① マウスなどで画面操作し、自分が確認したいファイルが保存されている場所まで移動する。確認したいファイルを選択。

② 確認したいファイルをダブルクリックで開き、中身の一覧を表示させる。

## 【Linux】 ファイル一覧の表示

```
Terminal - brain@L4N: ~
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ターミナル(T) タブ(A) ヘルプ(H)
brain@L4N:~$ ls
Desktop Music Templates git vmrt_preferences.properties
Documents Pictures Videos shell-practice
Downloads Public bin tutorial
brain@L4N:~$
```

**[ls] = listの略「ファイル/ディレクトリを表示しなさい」**

- ① lsをタイプ
- ② そのディレクトリ内のファイル/ディレクトリ一覧が表示される

⇒ 上記の画像では、[ls] をタイプすると [Desktop] や [Downloads] [Pictures] など保存されているファイル/ディレクトリの一覧が表示されます。

## 【Windows】ディレクトリの移動



目的とするファイルが保存されている階層まで、マウスなどを使い画面移動

## 【Linux】ディレクトリの移動

```
Terminal - brain@L4N: ~/Documents
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ターミナル(T) タブ(A) ヘルプ(H)
brain@L4N:~$ cd Documents/
brain@L4N:~/Documents$
```

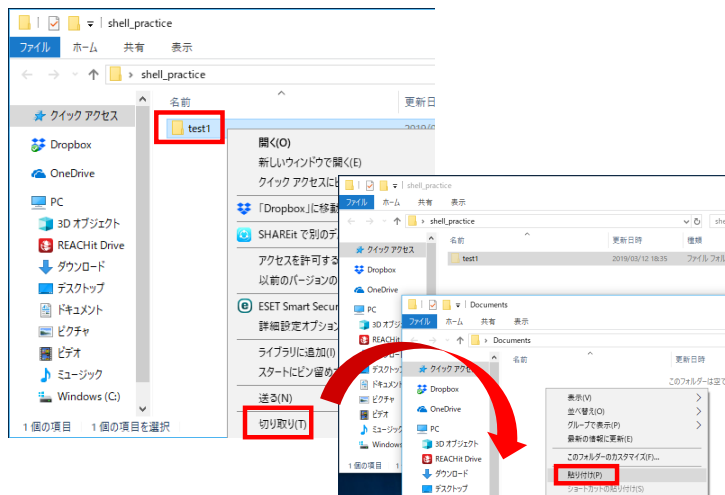
**[cd] = change directoryの略「ディレクトリを移動しなさい」**

- ① **cd Documents/** 「Documentsディレクトリへ移動しなさい」
- ② すると指定したディレクトリに移動することができる

⇒ [cd] の移動先は一つしか指定できません。移動先を指定しない場合は、ホームに戻ります。

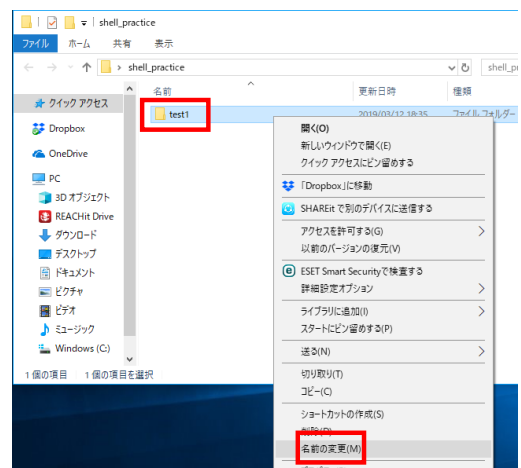
# 【Windows】移動／リネーム

## 移動



- ① 移動したいファイルを選択⇒右クリック [切り取り] 選択
- ② 移動先に移動し、右クリック [貼り付け] でファイルを移動

## リネーム



- ① リネームしたいファイルを選択
- ② 右クリック [名前の変更] でリネーム

# 【Linux】移動／リネーム

## 移動

```
Terminal - brain@L4N: ~/shell-practice
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ターミナル(T) タブ(A) ヘルプ(H)
brain@L4N:~$ cd Documents/
brain@L4N:~/Documents$ ls
test1 test2 test3
brain@L4N:~/Documents$ mv test1 ~/shell-practice/
brain@L4N:~/Documents$ cd ~/shell-practice/
brain@L4N:~/shell-practice$ ls
test1
brain@L4N:~/shell-practice$
```

## リネーム

```
Terminal - brain@L4N: ~/Documents
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ターミナル(T) タブ(A) ヘルプ(H)
brain@L4N:~$ cd Documents/
brain@L4N:~/Documents$ ls
test1 test2 test3
brain@L4N:~/Documents$ mv test1 test100
brain@L4N:~/Documents$ ls
test100 test2 test3
brain@L4N:~/Documents$
```

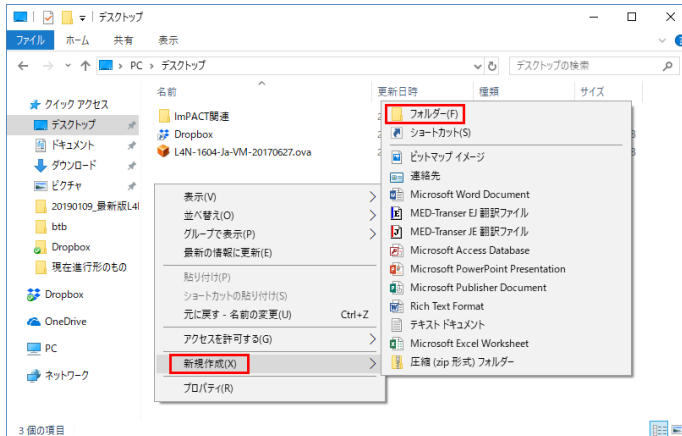
**[mv] = moveの略**

- ① `mv test1 ~/shell-practice/`  
「shell-practiceへtest1を移動させなさい」
- ② 指定した移動先に選択したディレクトリが移動

- ① `mv test1 test100`  
「test1をtest100という名前に変更しなさい」
- ② ディレクトリ名が指定したものに变更される

⇒ [mv] では引数を2つ指定します。  
⇒ 指定の仕方では「ディレクトリの移動」「リネーム」など結果が変わることに注意して下さい。

## 【Windows】ディレクトリの作成



右クリック ⇒ [新規作成] をクリック ⇒  
[フォルダー] を選択 ⇒ 新しいフォルダが作成

## 【Linux】ディレクトリの作成

```
Terminal - brain@L4N: ~
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ターミナル(T) タブ(A) ヘルプ(H)
brain@L4N: ~$ cd
brain@L4N: ~$ mkdir shell_practice
brain@L4N: ~$ ls
Desktop Music Templates git vmrt_preferences.properties
Documents Pictures Videos shell_practice
Downloads Public bin tutorial
brain@L4N: ~$
```

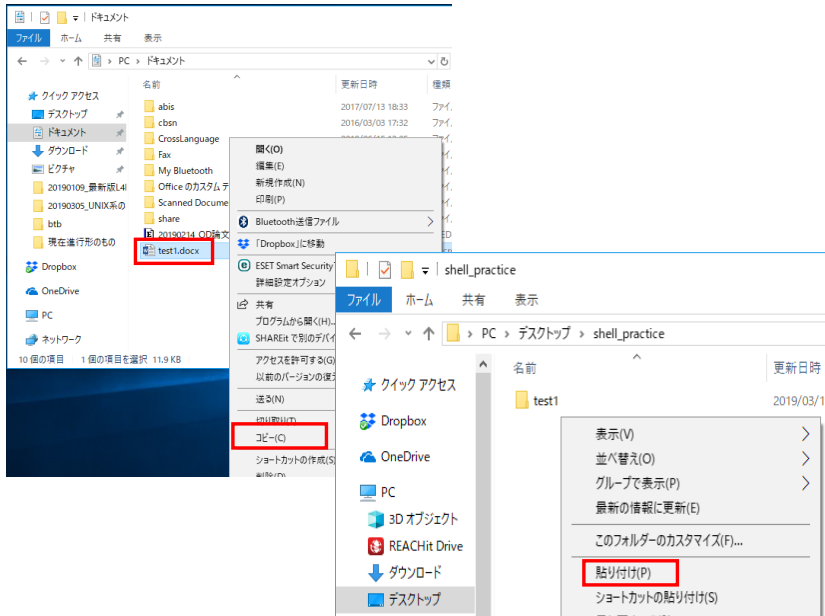
**[mkdir] = make directoryの略 「ディレクトリを作成しなさい」**

- ① **mkdir shell-practice** 「shell-practiceというディレクトリを作成しなさい」
- ② 新しいディレクトリが作成される

⇒ [mkdir] では、作成したいディレクトリ名を引数として指定します。

⇒ よく使うオプションとして [-p] があります。これは親ディレクトリを同時に作成することができます。

## 【Windows】コピー



- ① コピーしたいフォルダを選択
- ② 右クリックで【コピー】
- ③ 保存先で右クリックし、【貼り付け】を選択する

## 【Linux】コピー

```
Terminal - brain@L4N: ~/shell-practice
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ターミナル(T) タブ(A) ヘルプ(H)
brain@L4N:~$ cd Documents/
brain@L4N:~/Documents$ ls
test1 test2 test3
brain@L4N:~/Documents$ cp -r test1/ ~/shell-practice/
brain@L4N:~/Documents$ cd
brain@L4N:~$ cd shell-practice/
brain@L4N:~/shell-practice$ ls
test1
brain@L4N:~/shell-practice$
```

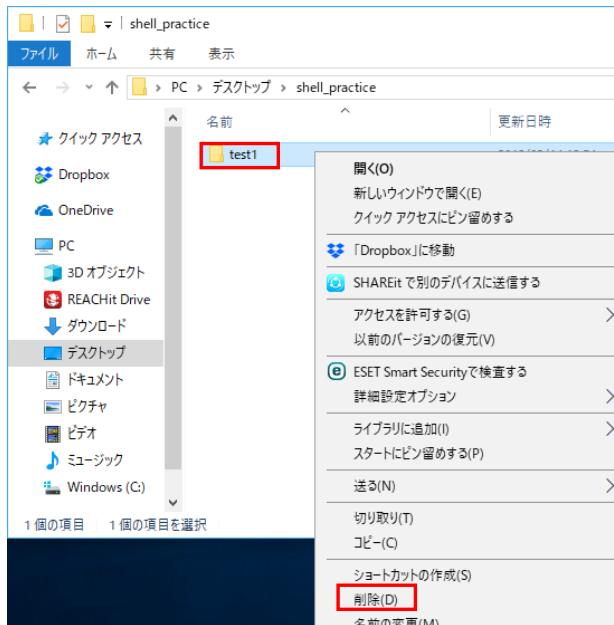
**[cp -r] = copyの略 「(ディレクトリなどを)コピーしなさい」**

- ① `cp -r test1 ~/shell-practice/` 「test1を~/shell-practiceへコピーしなさい」
- ② shell-practiceディレクトリを見るとtest1がコピーされている

⇒ [cp] は引数を2つ指定します。

⇒ オプションには [-r] などがあり、これにより下層にあるディレクトリまで一気にコピーできます。ディレクトリをコピーする時には必ず [-r] をつけて下さい。

## 【Windows】ディレクトリの削除



- ① 削除したいファイルを選択
- ② 右クリックから [削除] をクリック

## 【Linux】ディレクトリの削除

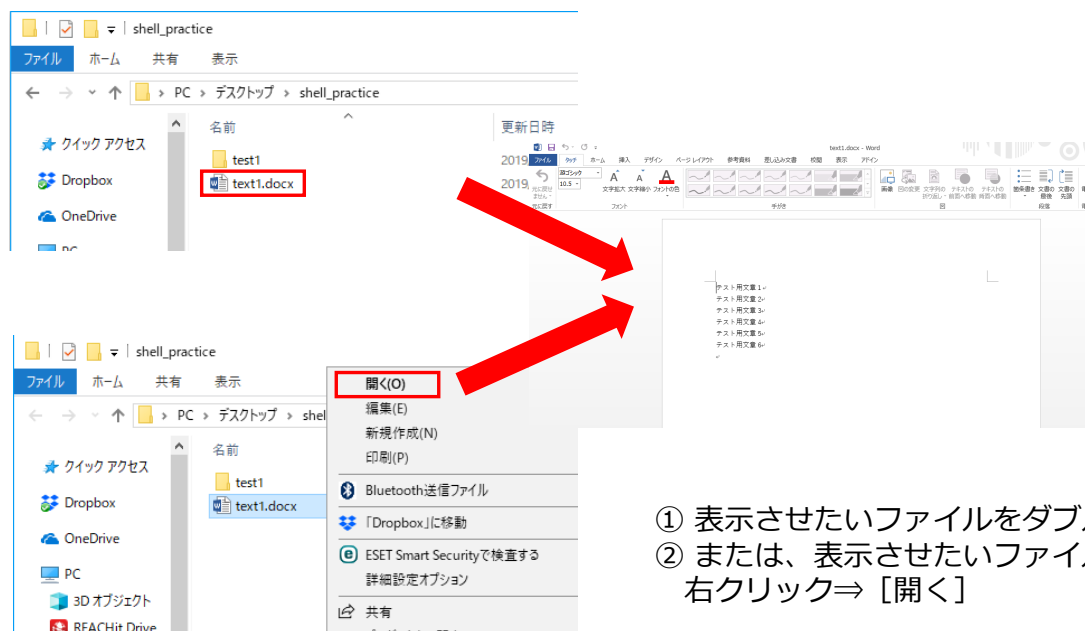
```
Terminal - brain@L4N: ~/Documents
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ターミナル(T) タブ(A) ヘルプ(H)
brain@L4N:~$ cd Documents/
brain@L4N:~/Documents$ ls
test1 test2 test3
brain@L4N:~/Documents$ rm -ir test1
rm: ディレクトリ 'test1' を削除しますか? y
brain@L4N:~/Documents$ ls
test2 test3
brain@L4N:~/Documents$
```

**[rm] = removeの略 「ディレクトリなどを削除しなさい」**

- ① **rm -ir test1** 「test1を削除しなさい」
- ② ディレクトリを見るとtest1が削除されている

⇒ [rm] は削除したいファイルやディレクトリを引数として指定します。  
⇒ オプションには、削除前に確認を表示させる [-i] や、下層ディレクトリまで削除できる [-r] などがあります。

## 【Windows】ファイルの表示



## 【Linux】ファイルの表示

```
Terminal - brain@L4N: ~/Documents
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ターミナル(T) タブ(A) ヘルプ(H)
brain@L4N:~$ cd Documents/test1
brain@L4N:~/Documents/test1$ ls
text1 text2
brain@L4N:~/Documents/test1$ cat text1
テスト用文章 1
テスト用文章 2
テスト用文章 3
brain@L4N:~/Documents/test1$
```

```
Terminal - brain@L4N: ~/Documents/test1
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ターミナル(T) タブ(A) ヘルプ(H)
brain@L4N:~$ cd Documents/test1
brain@L4N:~/Documents/test1$ ls
text1 text2
brain@L4N:~/Documents/test1$ cat text1 text2
テスト用文章 1
テスト用文章 2
テスト用文章 3
テスト用文章 4
テスト用文章 5
テスト用文章 6
brain@L4N:~/Documents/test1$
```

**[cat] = concatenateの略 「ファイルを(連結して)表示しなさい」**

- ① `cat text1` 「text1を表示しなさい」
- ② text1の内容が表示される

- ① `cat text1 text2`  
「text1とtext2を連結して表示しなさい」
- ② text1とtext2の内容が連結されて表示される

⇒ 引数を1つにすると、指定したファイルを表示します

⇒ 引数を2つにすると、指定した2つのファイルを連結して表示します

## 【Windows】テキストの文字数を数える



- ① [校閲] タブを選択
- ② [文字数カウント] を選択
- ③ [文字カウント] ウィンドウが表示される

## 【Linux】テキストの文字数を数える

```
Open  + text3
~/Documents/test1

1位 富士山 3776m
2位 北岳 3193m
3位 奥穂高岳 3190m
4位 間ノ岳 3190m
5位 槍ヶ岳 3180m

Terminal - brain@L4N: ~/Documents/test1
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ターミナル(T) タブ(A) ヘルプ
brain@L4N:~$ cd ~/Documents/test1/
brain@L4N:~/Documents/test1$ ls
text1 text2 text3
brain@L4N:~/Documents/test1$ wc text3
5 15 185 text3
brain@L4N:~/Documents/test1$ wc -l text3
5 text3
brain@L4N:~/Documents/test1$ wc -w text3
15 text3
brain@L4N:~/Documents/test1$
```

**[wc] = word countの略 「ファイルの文字数などを数えなさい」**

- ① `wc text1` 「text1の行数、単語数、文字数を表示しなさい」
- ② 結果は、左から [行数] [単語数] [バイト数] で示される

⇒ よく使われるオプションに、行数のみを表示する [-l] や、単語数のみを示す [-w] があります。  
⇒ lsとwcを組み合わせると、ファイル数のカウントに用いることができます。